

抄 録

急性心臓麻痺ニ對スル「アドレナ
リン—ストロファンチン」ノ心臓

内注射

Münch. Med. Wochenschr. June 17, 1921, Nr. 24.

グットマン氏ハ、從來試ミラレタル心臓麻痺ニ對スル藥劑ノ心臓内注射ノ不成效ナリシ理由ヲ考察シ、氏ガ試ミタル「アドレナリン」一耗ニ「ストロファンチン」一耗（兩者ノ實際量各一耗）ヲ加ヘタルモノヲ心臓内ニ注射セル五例ニ就テ報告シ、其中二例（婦人科疾患ノ開腹手術中ニ起リシモノ）ハ注射時既ニ心音ヲ聴取スルヲ得ザリシニモ拘ハラズ、患者ハ恢復セルヲ述べ、此際「アドレナリン」ハ注射瞬間ヨリ作用シ、此作用ノ消失スル頃ヨリ「ストロファンチン」ノ作用ノ現ハルルモノナリトナシ、此兩藥劑ノ配合ニヨリテ心臓ニ對スル持續的效果ヲ得ラル可キモノナリトナシ、是等ノ結果ヨリシテ考フルニ、

凡テ心臓停止ノ際ニ、其停止ノ原因ヲ除去シ得ル時（貧血又ハ中毒等ニ因ル心臓神經器ノ一時的麻痺）ニ心臓内注射ハ有效ナリト。其方法トシテハ、長サ十糎、係二耗ノ「マンドリン」ヲ有スル注射針ヲ、胸骨緣ヨリ左方二乃至二・五糎ノ部位ニシテ、第四第五肋骨間ヲ皮膚ニ垂直ニ四乃至五糎刺入スル時ハ其先端ハ右心室内ニ在リ「マンドリン」ヲ抜ケバ數滴、吸引スレバ多量ノ血液ヲ洩ラスガ故ニ、其心室内ニ在ルヲ確メ得可ク、次ニ藥液ヲ注入スルニ在リト。（T生抄）

麻醉中ニ起リシ心臓停止ニ對スル

「アドレナリン」ノ心臓内注射

同前。

フレンチエル氏ハ、麻醉ニ關シテ起リシ、心臓停止ノ重症ナル八例ニ就テ報告シ、此中五例ニ於テ「アドレナリン」ノ心臓内注射ノ永久的ニ良好ナル結果ヲ得タルヲ述べ、而モ此注射ニ因リテ何等ノ不良ナル影響ヲ見ザリシトナシ、此事實ヨリシテ、麻醉中ニ起リシ心臓停止ニ對シテ、心臓注射ハ之ヲ蘇生セシムル普通ノ方法ニシテ、

麻酔室ニハ此「アドレナリン」ノ心臟注射器ヲ準備ス可キヲ説キ、即先ヅ此際人工呼吸及心臟「マツサージ」ヲ施スコト三分間ノ後反應無クレバ「アドレナリン」ノ一mg.ヲ心臟内ニ注射ス可キナリト。(T生抄)

鼠ノ濕疹トスタイナーハ氏若返リ

法ノ關係

Wien. Klin. Wochenschrift, Juli 28, 1921, Nr. 30.

フ[#]ビーゲル氏ハスタイナーハ氏若返リ論ノ實驗的研究中ニ、氏ガ老衰ノ徵候トシテ認メタル鼠ノ背部ノ脱毛部ハ、何等老衰ト關係無キモノニシテ、寧ロ、限局性皮膚疾患ト見ル可キモノナリトナシ、而モ老衰性脱毛ハ動物ニ於テハ類人猿ノ他ニ起ラザル現象ナリト論ジ、サレバスタイナーハ氏ノ主張スル鼠ノ背部ノ脱毛ハ老衰ニ因スルモノニ非ズシテ一種ノ病的變化ト見ル可ク、此部ニ再ビ毛ヲ生ズルハ、若返リ法ヲ實施セシ結果ニ非ズシテ、ソノ部ノ病變ノ治癒セルガ故ナリトナシ、コレヨリシテフ[#]ビーゲル氏ハスタイナーハ氏ノ實驗ハ、他ニ異議ヲ生ズルノ餘地無キ實驗動物ヲ用ヒテ復試セラル可キモノナ

リト結論セリ。(T生抄)

十二指腸憩室 Duodenal diverticula.

The Journal of the Americ. Med. Association, Oct. 22, 1921.

アンドリユウ氏ハ、十二指腸憩室ニ就テノ徒來ノ報告ヲ列擧シ、氏ノ經驗ヨリシテモ、本症ハ從來考ヘラレシ如ク而カク稀ナラザルヲ注意シ、氏ガ過去十箇年間ニ得タル二千二百例ノ胃部X線寫眞ヲ検査シ、其十四%ニ於テ、十二指腸部ノ形態異常ヲ認メ、此中ノ二十六例即チ一・二%ニ於テ憩室ト見ル可キ所見ヲ得タリト爲シ、是等ノ症例及其治療ニ就テ、内科醫及外科醫ノ注意ヲ促セリ。

之ニ對シテケース氏ハ討論シテ、アンドリユウ氏ノ示セル十二指腸憩室トシテノX線寫眞ハ、其四、五枚ヲ除クノ他ハ、固有ノ十二指腸憩室ト認ムルヲ得ト爲シ、且此十二指腸憩室ハ多クハ特別ノ病症ヲ現ハスコト無ク、ケース氏ノ遭遇セル十二例ノ手術例モ、他ノ原因ヨリシテ、開腹セラレタルモノナルヲ述ベタリ。

而シテ又同雜誌ノ社説ニ於テ、本症ノ注意ス可キモノナルヲ説キ、假令是等ハ無害ナリトスルモ、解剖上ノ見地ヨリシテ明カニ異常ナル以上ハ、内科醫外科醫並ニ病理解剖家ノ興味アル研究題目ナリトセリ。(T生抄)

ドクトル號ノ賣買

本年二月十二日發行ノアメリカ醫學會雜誌ノバリ通信中ニ、標記ノ題デ、目下バリニテ、「通信法ニ據ツテ得ラルドクトル號」ナル廣告ノ下ニアメリカノドクトル號ヲ賣リツツアリ。即米國ワシントン市「オリエンタル」大學ナルモノノバリ代表者ニ、「タイブライター」ニテ打タレタル四十頁ノ一論文ニ、齒科(D.D.S.)ナレバ百四十ドル、醫科(M.D.)ナレバ百六十五ドルヲ添ヘテ申込メバ、米國本部ヨリドクトル號ヲ授與ス。ト報ジテ居リ、是ニ對シテ、同誌社説ノ一ツニ、如斯ハアメリカ醫學ヲ世界のニ汚辱スルニ外ナラズ。而シテ此責任ハ本大學ニ特許ヲ與ヘタルヴァージニア州ノ負フ可キモノニシテ、同州ハ直チニ此特權ヲ取消ス可キモノナリト、論ジテ居ツタガ

其後バリテ、此種ノドクトル號ヲ開業スル者が少ク無イト見ヘ、本年十月二十九日發行ノ同シクアメリカ醫學會雜誌ノバリ通信中ニ、同國內務大臣ノ訓令ニヨリバリ警察署長ヨリ同醫師會長ニ宛テ、此種ノ學位ニ據ツテ開業シツアル醫師ノ姓名ノ通告ヲ依頼シテ居ルガ、抄譯者ハ之ヲ讀ンテ、外國ノドクトル號ナルモノノ一部ニハ斯様ナルモノモアルト

抄
錄

云フ感テ一層強クシタ。(T生抄)

戰爭ニ因ル獨逸人員ノ損失

獨逸醫事週報ニ記載スル所ニ據レバ、千九百二十一年八月ノ正確ナル調査表ニ見ルニ、世界大戰中ニ獨逸ノ全損害ハ、戦死百八十八萬八千五百四十五人、負傷四百二十四萬七千四百四十三人ニシテ、此中、醫師ノ戦死者千六百七十五人、負傷二千二百人ナリト。(T生抄)